

『神が望んでおられる信仰』

’21/07/18

聖書箇所: マルコの福音書 11 章 20-26 節 (新約 p.89-)

つい先日、私たちは、イエス様が呪われた「葉っぱだけのイチジクの木」について学びました。皆さん、覚えてくださっていますか？…あのイチジクの木は、遠くから見ると、たくさん葉っぱが茂っていたので、一見すると期待できそうだったのですが、近づいてよく見てみると、たくさん茂っているように見えていたのは、実は、葉っぱだけで…、“肝心の芽”が…、当然、結んでいるはずの芽が一切ありませんでした。だから、イエス様は、そのイチジクの木を呪われたのです！

…と言いますのも、実は、そのイチジクの木は、あのイスラエルの信仰を…、特に、エルサレムの町を象徴するものであったからです！…実際、この当時のエルサレムには、聖書が教える真唯一の神様のことを礼拝するための大きな…、しかも、とんでもなく立派な神殿がありました。そこに、毎日、大勢の巡礼者たち…、つまりは、その神様のことを礼拝し、その神様に捧げ物を捧げるため、多くの信者たちがたくさん集まっていたのです。…それは、まるで、真緑に茂ったイチジクの木のようにでした…。

しかし、そこに近づいて見ると…、つまり、イエス様の一行がエルサレムの町へ行ってみると、確かに、エルサレムには立派な神殿が建っていました。そこには、大勢の巡礼者たちが捧げ物を捧げておりました。しかし、エルサレムにあった神殿の敷地内に入ってみると、そこでは、シケルに両替してくれる両替商や捧げ物である鳩を売る商人たちが、遠くからやって来た巡礼者たちの足元を見て、かなりの“暴利”を貪っていたのです！…イエス様がおっしゃったのは、「お前たちは、まるで、強盗のようだ！」ということでした。だから、イエス様は、商売人たちの台やイスを倒したり…、その悪徳商売人たちの神殿から追い出されたりされたのです。それが、所謂、「イエス様による宮きよめ」と呼ばれるものでした。

命題: イエス様が教えてくださった、「神が望んでおられる信仰」とは？

さて、今日、私たちが学んでいきたいみことばは、マルコ伝 11:20-26 の部分になります。そのみことばは、あのイエス様が教えてくださった本物の信仰について…、言い換えるなら、「神様が望んでおられる信仰」について教えてくれています。そこから、願わくは、皆さんが、もう一度自分自身の信仰を吟味して下さって、真正銘、本物の信仰を持って…、この偉大なる神様と、その神様が与えてくださる救いの恵みを大胆に宣べ伝えていってくださいますことを願います。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、今日のみことばである、マルコ伝 11:20 以降のみことばをお開きください。

I・神だけを、とことん信じる信仰！(20-24 節)

まずは、今回のみことばの前半である、マルコ 11:20-24 のみことばに注目していきましょう。その部分で、イエス様は、まあ、簡単に言うと、**真の神様だけを、“とことん”信じる…、あるいは、信じきる！というこの大切さについて** 教えてくださっています。まずは、そういったことを、皆さんと一緒に確認していきたいと思います。マルコ 11:20-24 には、このように記されてあります。

20 朝早く、通りがかりに見ると、いちじくの木が根まで枯れていた。

21 ペテロは思い出して、イエスに言った。「先生。ご覧なさい。あなたののろわれたいちじくの木が枯れました。」

22 イエスは答えて言われた。「神を信じなさい。

23 まことに、あなたがたに告げます。だれでも、この山に向かって、『動いて、海に入れ』と言って、心の中で疑わず、ただ、自分の言ったとおりになると信じるなら、そのとおりになります。

24 だからあなたがたに言うのです。祈って求めるものは何でも、すでに受けたと信じなさい。そうすれば、

そのとおりになります。

●「呪われたいちじくの木」が意味すること？

さて、ここ 20 節の冒頭をご覧くださいますと、『朝早く、通りがかりに見ると…』とありますので、今日これから見ていく出来事は、イエス様が十字架に磔にされる直前の火曜日に起こった出来事であるということが分かります。その火曜日の朝、イエス様の一行は、その直前の 19 節のみことばが教えてくれているように、また、バタニヤの村から、エルサレムへと向かっている途中に、イエス様が呪われた、あのイチジクの木を見かけるわけです。

すると、その木は、根っこまで枯れていた！ということ、今日のみことばは教えるわけです。皆さんも分かっていますか？…このイチジクの木は、つい、この前日まで緑の葉っぱが茂っていたのです。…それが、たった1日…、厳密に言うと、24 時間も経たない内に、根っこまで枯れてしまっていたのです！…スゴイでしょ！

でも、そこでまず、私たちが、そのイチジクの木を通して考えたいことは、その呪われたいちじくの木が“意味”している内容であります。…と言いますのも、いくら、私たちが、「イエス様が呪われたイチジクの木が、その翌日に枯れてしまった…、そのことが書かれてあるみことばは、マルコ 11:20 である」ということを分かっていたとしても、“肝心の意味”が分かっていたら、そういった知識は何の役に立ちません。…そうでしょ？ 私たちは、それらのみことばが何を教えてくれているのか？ また、そういったことの教訓を、自分自身の信仰や生き方に適用していかないとけないのです。

前回も言いましたように、このイチジクの木は、単なるイチジクの木ではありませんでした。これは、あのイスラエルを象徴していたのです。だから、私は、2週間前の礼拝で、旧約聖書のエレミヤ書やホセア書のみことばを引用しましたでしょ？…もし詳しく知りたければ、どうぞ、2週間前の礼拝をご覧ください。

それと一緒に、私は、ヨシヤ記 24 章のみことばを引用しました…。そこで、ヨシヤは、イスラエルの全部族に対して、どんな選択を迫りました？⇒その時に引用したヨシヤ記 24:14-15 のみことばを紹介すると、こうあります、『14 今、あなたがたは【主】を恐れ、誠実と真実をもって主に仕えなさい。あなたがたの先祖たちが川の向こう、およびエジプトで仕えた神々を除き去り、【主】に仕えなさい。15 もしも【主】に仕えることがあなたがたの気に入らないなら、川の向こうにいたあなたがたの先祖たちが仕えた神々でも、今あなたがたが住んでいる地のエモリ人の神々でも、あなたがたが仕えようと思うものを、どれでも、きょう選ぶがよい。私と私の家とは、【主】に仕える。』って…。

良いですか？ 皆さん。ヨシヤが言ったことを、もっと簡単に言うと、こういうことです、「あなた方には、真の神様に従うか、それとも、あなたの方が好きな…、神様以外の何者かに仕えるか、2つの選択肢がある！ って…。ただし！ もしも、あなたの方が真の神様に仕えると言うのなら、あなた方は、『誠実と真実をもって』主に仕えなければならぬ！ って…。そうでしょ！

さて、果たして、イスラエルの民たちは、この時に誓ったように、真の神様に対して、“誠実と真実をもって”神である主に仕え続けたでしょうか？…いいえ！ 残念ながら、イスラエルの民たちは、何度も、主に逆らって、様々な罪を犯し続けたのです。だから、彼らは、何度も、何度も、信仰ゆえの苦難を経験して、ついには、紀元 70 年、あのエルサレムがローマによって滅ぼされてしまうわけです。

さて、こういったことから、私たちが、まず1番に教訓とすべきことは、イスラエルと同様、私たちにも選択肢が与えられている、ということ。天の神様は、私や皆さんにも、同じような選択の自由を与えてくださっています。だから、私たちが、今日…、例えば、今すぐにも、この教会に来なくなることも自由だし…、皆さんの信仰を棄てることだって出来ます！…そうでしょ！

そこで、どうぞ、皆さん…。申命記 30 章で、あのモーセを通して、主なる神が語ってくださったみことばを思い起こしてください。申命記 30:14-20 には、こう記されています、『14 まことに、みことばは、あなたのごく身近にあり、あなたの口にあり、あなたの心にあつて、あなたはこれを行うことができる。15 見よ。私は、確かにきょう、あなたの前にいのちと幸い、死とわざわいを置く。16 私が、きょう、あなたに、あなたの神、【主】を愛し、主の道に歩み、主の命令とおきてと定めとを守るように命じるからである。確かに、あなたは生きて、その数はふえる。あなたの神、【主】は、あなたが、入って行って、所有しようとしている地で、あなたを祝福される。17 しかし、もし、あなたが心をそむけて、聞き従わず、誘惑されて、ほかの神々を拝み、これに仕えるなら、18 きょう、私は、あなたがたに宣言する。あなたがたは、必ず滅びうせる。あなたがたは、あなたが、ヨルダンを渡り、入って行って、所有しようとしている地で、長く生きることができない。19 私は、きょう、あなたがたに対して天と地とを、証人に立てる。私は、いのちと死、祝福とのろいを、あなたの前に置く。あなたはいのちを選びなさい。あなたもあなたの子孫も生き、20 あなたの神、【主】を愛し、御声に聞き従い、主にすがるとためだ。確かに主はあなたのいのちであり、あなたは【主】が、あなたの先祖、アブラハム、イサク、ヤコブに与えたと誓われた地で、長く生きて住む。』って…。

⇒良いですか？ 皆さん！ …確かに、私たちに、「選択の自由」が与えられています！ 真の神様に従っていくか、それとも、自分の好きなように生きていくか、それらを選ぶのは、皆さん自身です！ でも、どうか、このことだけは、しっかりと覚えておいてください。皆さんが選ばれた選択の…、その後で、果たして、神様からの祝福が与えられるか、それとも、恐ろしい呪いや信仰ゆえの苦難を経験するか、それらを受け取る・受け取らないという選択肢は、私たちにありません(ガラテヤ 6:7-9)。…だから、私たちは今の内に、後悔のしないような選択をしないとイケないのです！

● 本物の信仰とは？

残念ながら、この時のイスラエルは、神様のみこころに合うことはありませんでした。だから、彼らは、国を失ったのです！ モーセを通して与えられた、神様の警告通りです！ …そこで、イエス様は、今日のみことばを通して、もう1度、弟子たちに対して、「“本物”の信仰とは、どのようなものであるか？」ということについて教えてくださっているのです。

そこで、どうか、まずは、今日の平行箇所である、マタイ 21 章のみことば(の一部)を紹介させていただきます。そこには、こう記されています、『18 翌朝、イエスは都に帰る途中、空腹を覚えられた。19 道ばたにいちじくの木が見えたので、近づいて行かれたが、葉のほかは何もないのに気づかれた。それで、イエスはその木に「おまえの実は、もういつまでも、ならないように」と言われた。すると、たちまちいちじくの木は枯れた。20 弟子たちは、これを見て、驚いて言った。「どうして、こうすぐにいちじくの木が枯れたのでしょうか。』(マタイ 21:18-20)って…。

まず、皆さん…。この平行記事で、今日のみことばと少し違う点に気付いてくださいました？ …例えば、マルコ伝では、イエス様が呪われたイチジクの木が枯れていたことを、弟子たちが発見したのは、その翌日…、火曜日であつたでしょ？ …でも、マタイ伝のみことばでは、それがまるで、同じ日の月曜日に起こったような書かれ方がされています。…一部の、聖書に批判的な読者たちは、こういった点を見つけて、「ほら！ 聖書には矛盾がある！ 間違いを見つけた！」と騒ぎ立てます。しかし、こういったことは矛盾でも、間違いでもありません。それらの強調点が違うだけです。…マルコ伝の方は、それらが起こった出来事を詳しく…、時間的にも忠実に書き記してくれているのに対して、マタイ伝の方は、よりシンプルに分かりやすく、イチジクの木が枯れたことと…、それが、翌日かどうかということよりも、驚くほど短期間の内に起こった！ ということを教えてくれているのであって、両方とも正しいのです！ そうでしょ！

でも…、今日、皆さんに注目してほしいのは、ここマタイ 21:20 の部分です。ここで、弟子たちは、そのイチジクの木が枯れているのを見て、驚いて、『どうして、こうすぐにいちじくの木が枯れたのでしょうか？』と

言ったということが記されています。…実は、ここ 20 節には、ギリシャ語の疑問詞と言うか、副詞(πῶς)が使われてあつて、その言葉は、弟子たちが持った疑問や驚きを表わしています。…正直言って、私も、さほど、ギリシャ語には詳しくないので、このみことばが、①弟子たちが、どうしてイチジクの木が枯れているのですか？ という「疑問」を持つたのか、あるいは、②弟子たちが枯れているイチジクの木を見て、「大きな驚き」を持つた！ ということを書いたかつたのか、それらのどちらであるか分かりません。…しかし、それらのどちらであつても、そう大きな違いはありません。

要は、この時、弟子たちは、このイチジクの木が枯れているということ、あまり、予期できていなかった！ ということなのです。…だから、弟子たちは皆、イチジクの木が枯れているのを見て、不思議に思ったし、また、驚いたのです。…でも、イエス様は、その前日に、そのイチジクの木に向かって、『今後、いつまでも、だれもおまえの実を食べることのないように。』(マルコ 11:14)とおっしゃったわけで…、もしも、イエス様の力や、そのことの重大性を弟子たちがしっかりと理解できていたら、そう驚きはしなかったはずなのです。…つまり、今、私が何を言いたいのか？ と言いますと、この時点でも、弟子たちは、まだまだ、イエス様のおっしゃったことに関して、十分な信頼を持っていなかった！ ということなのです。

だから、イエス様は、今日のみことばの 22 節で、弟子たちに、こうおっしゃるわけですが、『神を信じなさい！』って…。と言いますのは、この時の弟子たちが、まだまだ…、十分には、神様のことを信じきれていなかったからです。…でも、どうか、誤解をしないでください。多分、この時、(イスカリオテを除く)弟子たちの多くは、イエス様のことを信じて、救われていたのではないかと私は思っています。

…と言いますのも、実は、ここ 22 節で、イエス様がおっしゃられた『神を信じなさい！』という表現ですが、この部分を観察してみると、「持つ+信仰を+神の」という感じで書かれています。この動詞の部分は、「持つ」という動詞が、命令形で…、しかも現在命令法という感じで記されています。この命令形は、「その動作を継続して続けなさい！」という時に使われます。つまり、ここでイエス様は、「神様への信仰を(継続して)持ち続けなさい！」という趣旨のことを命じられたのです。

…と言いますのも、この聖書のみことばが教える、本物の信仰とは、瞬間的…、一時的な信仰ではないからです。…どうか、皆さん、イエス様がヨハネ伝 10 章で、「わたしは門です。わたしは良い牧者です」ということを話してくださった、あのくだりを思い出してください。あそここの文脈で、イエス様は、こんなことを教えてくださっています。『26 しかし、あなたがたは信じません。それは、あなたがたがわたしの羊に属していないからです。27 わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。またわたしは彼らを知っています。そして彼らはわたしについて来ます。28 わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。29 わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。』(ヨハネ 10:26-29)

良いですか、皆さん。ここでも、イエス様は、本当に救われた者たちと、一見救われているように見えて、実は、本当には救われていない者たちとの違いについて教えてくださっているのではありません？ イエス様に属している羊たちと、そうではない羊たちとの違いについてです。ここで、イエス様は、本当に救われた者たちの特徴として、①彼らはイエス様の声を聞き分けて、イエス様について来ることです。これは、一時的な動作のことを言っているのではありません。彼らは皆、継続して、イエス様に従い続けるのです。そして、②もう1つは、イエス様が彼らに永遠のいのちを与えられるので、その者たちは、決して滅びることがないし、誰もイエス様から、彼らのことを奪い去ることはできない！ ということなのです。そうでしょ！

つまりね、皆さん…。本当に救われた者たちは皆、継続して、その救い主であられるイエス様に従い続けるし…、従い続けようとするのです。皆さんだって、そうでしょ！ …しかも、私たちの側だけではありません。もしも、私たちが神様から離れようとしても、神様の側が、救われた私たちのことを引き離してくだらないのです！ …だから、救いというものは、決して、失うことがないのです。

でも、悲しいことに、時々、私たちの周りには、「何かの勢いで、イエス様のことを信じる。一時的に、イエス様のことを信じる…」というようなことが起こっているように見えます。…正直言って、その人たちが、本当に救われているのかどうか、私には分かりません。しかし、もしも、その人たちが本当に救われているのなら、天の神様が、その人たちのことを見捨てられません！…だから、その人たちは、神様のことを忘れて、信仰を棄て去ることができないのです。…これは、私が言っていることではありません。神様のお言葉である聖書が、そう教えてくれているのです！

●神の みこころ に沿った信仰！

どうぞ、今度は、今日のみことばの 23-24 節に注目してください。そこには、こうあります、『23 まことに、あなたがたに告げます。だれでも、この山に向かって、『動いて、海に入れ』と言って、心の中で疑わず、ただ、自分の言ったとおりになると信じるなら、そのとおりになります。24 だからあなたがたに言うのです。祈って求めるものは何でも、すでに受けたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになります。』…

どうか、皆さん。こういったみことばで、どんなことでも、強く信じ…、また、強く信じきったら、勝手な願ひ事であっても叶うとは思わないでください。ここで、イエス様は、そういったことを教えようとされているではありません。

先程も言いましたように、ここで、イエス様は、「本物の信仰について」教えてくださっています。本当に救われた者たちは、ヨハネ 10 章のみことばが教えてくれているように、本当の神様の声を聞き分けます。つまり、本当に救われた者たちは、神様の“みこころ”というものを求めて、そのみこころに従おうとするし、そのみこころがなされることを一番に願うのです。

だから、皆さんは、こんなみことばをご存知のはずです。Iヨハネ 5:14、『何事でも神のみこころにかなう願ひをするなら、神はその願ひを聞いてくださるということ、これこそ神に対する私たちの確信です。』…そうでしょ？…だから、このみことばだって、そうです。…どんなに、それが実現不可能に見えることであっても、あるいは、どんなに奇想天外なことであったとしても…、もしも、それが神様のみこころであったら、例えば、山が動いて湖に移るようなことであったとしても、必ず、それは起こるのです！

もう、10年以上も前…、20年近くの話になりますが、かつて、「ヤベツの祈り」というような信仰書が発売されてから、そういったような信仰…、つまり、私たちが強く願ひさえすれば、私たちの願ひが叶う！といったような信仰がもてはやされたような時代がありました。しかし、ある意味、感謝なことに、「ヤベツの祈り」のブームは過ぎ去りましたが…、でも、そのような信仰や神学は、実は、今もまだ続いています。

だから、どうか、皆さん。いくら、自分たちにとって都合が良いからと言って、聖書的でない…、間違った教えに惑わされないでください！…いくら、それが自分たちにとって都合が良かったとしても、あるいは、魅力的であったとしても、それが間違いであることに変わりはありません。間違った教えは、一時的には、良かったとしても、長い目で見ると、必ず、大きな問題を生じさせます。

実は、今日のみことばと同じことが Iヨハネ書でも教えられています。Iヨハネ 3:21-22、『21 愛する者たち。もし自分の心に責められなければ、大胆に神の御前に出ることができ、22 また求めるものは何でも神からいただくことができます。なぜなら、私たちが神の命令を守り、神に喜ばれることを行っているからです。』⇒このみことばが教えてくれているように、もしも、私たちが真の神様を信じ、その神様に喜ばれることを行なっていくなら、そこに何が起こるか？…聖霊なる神様が、私や皆さんのことを満たしてくださいませ。そのような者たちに対して、神様は、より深い神様の御計画…、つまり、神様の“みこころ”を示してくださるのです！…ちょうど、ピリピ 2 章のみことばが教えてくれているように…。ピリピ 2:12-13 には、こうあります、『12 そういうわけですから、愛する人たち、いつも従順であったように、私がいるときだけでなく、私のいない今はなおさら、恐れおののいて自分の救いの達成に努めなさい。13 (訳出されていない

が、「なぜなら」)神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。』…

⇒いかがです？…ここでも、私たちの従順と絡めて、みこころということが教えられてありますでしょ？

…このように、神様のみこころというものは、神様に対して、従順な者に対して示されるのです。そして、天の神様は、その従順な者たちを用いて、様々なみこころを実現していかれるのです。…ですから、そういった意味においても、「神様のみこころが示されたら、私は従います！」という態度が間違っている…、順番が正反対である！ということをご皆さんには分かっていたいただきたいと思います。

II・人の罪を 赦せる 信仰！(25-26 節)

さて…、最後は駆け足で、2番目のポイントを見ていきましょう。どうぞ、今度は、今日のみことばの内、25 節の部分に注目してください。そこで、イエス様は、他人の罪を“赦せる”信仰について教えてくださっています。でも、そのみことばを読む前に、どうぞ、欄外にある脚注の部分をご覧ください。そこには、かなり小さな文字で、こう記されてあります、「異本 26 節として～を加える」…

正直言って、ここ 26 節の部分は、聖書の写本によっては含むものがあるようです。しかし、恐らくは、最初、マルコが書き記した時には、その 26 節の部分はありませんでした。だから、この 26 節の部分が、厳密に言うと、聖書の 1 節かどうか、あるいは、神様の靈感を受けているかどうか？と言うと、答えは、どちらとも、No です。しかし、まず間違いなく、後になって、この 26 節を付け加えた者は、良かれと思って、その 26 節を加えたわけで、多分、そういったことが、後の時代のクリスチャンたちにも支持されたからこそ、その 26 節の部分が受け継がれてきたのだと思います。ですから、今日のメッセージでは、神様の靈感を受けた聖書の一部分としてではなく…、この部分を補う部分として、読ませていただきます。

25 また立って祈っているとき、だれかにに対して恨み事があつたら、赦してやりなさい。そうすれば、天にあられるあなたがたの父も、あなたがたの罪を赦してくださいませ。」

26 「しかし、もし赦してやらないなら、あなたがたの天の父も、あなたがたの罪を赦してくださいませ。」

●クリスチャンに与えられた 恵み とは？

先程も言ったように、ここで、イエス様は、罪の赦しについて教えてくださっています。…と言いますのも、まず、神様の方が、私たちの罪を赦してくださいましたからです！…そこで、まずは、改めて言うまでもありませんが、神様が私たちクリスチャンに与えてくださった、大きな“恵み”である罪の赦しについて、手短かに確認しましょう。

この聖書が、一貫して教えてくれていることは、すべての人は聖い神の前において罪人であって、本来ならば、すべての人間が死後裁きを受けるべき運命にありました。しかし、そんな中であって、天の神様は、私たちの罪を赦して救いへと導くため、御子イエス様を救い主として、この地上に遣わしてくださいました。そのイエス様は、この地上で、神様の義を全うされて、なおかつ、私たちの犯した罪すべてを身代わりになって、あの十字架上で裁かれてくださったので、初めて、救いの道が備えられたわけですね。

このように、救いとは、私たちの努力や行ないによって得られる“報酬”ではなく、神様からの一方的な“恵み”によって与えられます。だから、聖書のみことばは、一貫して、私たちクリスチャンが救われることを、神様からの“恵み”であると教えるわけです。だから、私たちクリスチャンは一切、誰にも誇ることはできないのです。

天の神様は、そういったことを旧約時代は預言者たちによって、予め、語っておいてくださいました。そして、時が満ちて、最後に救い主が来てくださったのです。それが、イエス様です。イエス様は、そういった神様の御気持を分かりやすく説明するために、ある時、こんな例え話を語ってくださいました。それが、

マルコ 12:1-9 です。そこには、こう説明されています、『1 それからイエスは、たとえを用いて彼らに話し始められた。「ある人がぶどう園を造って、垣を巡らし、酒ぶねを掘り、やぐらを建て、それを農夫たちに貸して、旅に出かけた。2 季節になると、ぶどう園の収穫の分けまえを受け取りに、しもべを農夫たちのところへ遣わした。3 ところが、彼らは、そのしもべをつかまえて袋だたきに、何も持たせないで送り帰した。4 そこで、もう一度別のしもべを遣わしたが、彼らは、頭をなぐり、はずかしめた。5 また別のしもべを遣わしたところが、彼らは、これも殺してしまった。続いて、多くのしもべをやっつけられ、彼らは袋だたきにしたり、殺したりした。6 その人には、なおもうひとりの者がいた。それは愛する息子であった。彼は、『私の息子なら、敬ってくれるだろう』と言って、最後にその息子を遣わした。7 すると、その農夫たちはこう話し合った。『あれはあと取りだ。さあ、あれを殺そうではないか。そうすれば、財産はこちらのものだ。』8 そして、彼をつかまえて殺してしまい、ぶどう園の外に投げ捨てた。9 ところで、ぶどう園の主人は、どうするでしょう。彼は戻って来て、農夫どもを打ち滅ぼし、ぶどう園をほかの人たちに与えてしまいます。』
⇒もう皆さんも分かっていると思います。実は、この例え話の中で、最後に遣わされた息子が、イエス様のことを表わしています。私たちは、神が遣わしてくださった、その息子のようなイエス様を殺してしまったのです！…にも関わらず、天の神様は、私たちの罪を赦し…、私たちのために救いの道を備えてくださったのです！…これが、神様の御恵みでなくて何でしょう！…そうでしょ！皆さん！

●救われていない者たちの 特徴 とは？

そういつたわけで、私たちクリスチャンは一人残らず…、その行ないや努力などではなく、神様からの一方的な恵みによって救われました。…そうですよ？…では、そのことを踏まえた上で、マタイ 18 章のみことばを紹介させていただきます。そこで、イエス様は、赦しについて…、特に、私たちクリスチャンたちがなすべき、赦しについて教えてください。

マタイ 18:21-35、『21 そのとき、ペテロがみもとに来て言った。「主よ、兄弟が私に対して罪を犯した場合、何度まで赦すべきでしょうか。七度まででしょうか。」22 イエスは言われた。「七度まで、などとはわたしは言いません。七度を七十倍するまでと言います。23 このことから、天の御国は、地上の王にたとえることができます。王はそのしもべたちと清算をしたいと思った。24 清算が始まると、まず一万タラントの借りのあるしもべが、王のところ連れて来られた。25 しかし、彼は返済することができなかったで、その主人は彼に、自分も妻子も持ち物全部も売って返済するように命じた。26 それで、このしもべは、主人の前にひれ伏して、『どうかご猶予ください。そうすれば全部お払いいたします』と言った。27 しもべの主人は、かわいそうに思って、彼を赦し、借金を免除してやった。28 ところが、そのしもべは、出て行く、同じしもべ仲間、彼から百デナリの借りのある者に出会った。彼はその人をつかまえ、首を絞めて、『借金を返せ』と言った。29 彼の仲間は、ひれ伏して、『もう少し待ってくれ。そうしたら返すから』と言って頼んだ。30 しかし彼は承知せず、連れて行って、借金を返すまで牢に投げ入れた。31 彼の仲間たちは事の成り行きを見て、非常に悲しみ、行って、その一部始終を主人に話した。32 そこで、主人は彼を呼びつけて言った。『悪いやつだ。おまえがあんなに頼んだからこそ借金全部を赦してやったのだ。33 私があまえをあわれんでやったように、おまえも仲間をあわれんでやるべきではないか。』34 こうして、主人は怒って、借金を全部返すまで、彼を獄吏に引き渡した。35 あなたがたもそれぞれ、心から兄弟を赦さないなら、天のわたしの父も、あなたがたに、このようになさるのです。』

⇒いかがです？ここでも、イエス様は、本当に救われた者と、そうではない者たちとの違いについて説明してくださっているのではありません？…何度も言いますように、この聖書には…、また、イエス様の教えには、本当に救われた者たちと、実際には、救われていない者たちに関する警告が“数多く”あるのです！…なのに、どうして、多くのキリスト教会では、そういったことについて真剣に語ろうとしないのでしょうか？…さて、この少し前、イエス様は、「もし、兄弟の誰かが罪を犯したら…」と言って、教会が、罪を犯

した兄弟姉妹に対して、正しく対処すべきように教えてくれています。所謂、「教会戒規」と呼ばれているものです。そこで、言われているのは、「もしも、あなたの兄弟が罪を犯しても、その人物が、本当に罪を悔い改めるなら、その兄弟を赦してやりなさい！」ということです。

そこで、弟子のシモン・ペテロがイエス様に質問するわけです、「じゃあ、もしも、兄弟が私に対して、罪を犯した場合、何度まで赦したら良いでしょうか？7度まででしょうか？」ということを探ねます。…と言いますのも、この当時、ユダヤ教の教師であつたラビたちは、「3度まで赦してやりなさい(タルムードのヨーマ=86bから)」ということを教えていたそうで、ペテロからすると、「7度まで赦してやったら、良いでしょうか？」ということだと思われまふ。しかし、それに対して、イエス様が教えてくださったのは、7度を70倍…、つまり、それは「490回赦してやりなさい！」ということではなくて、相手が罪を悔い改めて、その人があなたに赦しを求めるなら、何度だって赦してやりなさい！ということです。

そう言っ、イエス様は、非常に分かりやすい例えをもって、私たちが罪を赦すべきことを教えてくださいました。それが、今紹介した23節以降の、1万タラントの借金を赦してもらったしもべが、わずか100デナリの借金を赦してやらなかったために、そのご主人様から叱られて、獄吏に引き渡されたという結末です。この最後で、イエス様が結論として教えてくださいのように、兄弟姉妹を赦そうとするかどうかで、その人が本当に救われているかどうか分かります。

どうか、皆さん、勘違いをしないでください。ここでイエス様がおっしゃっておられるのは、もしも、罪を犯した兄弟の罪を赦せるなら、その人は、その「他者を赦す」という行ないや選択によって救われ得る！ということではありません。それは、聖書自体が否定している「行ないによる救い」です。…そうではなくて、もしも、その人が、本当に、主の憐れみによって救われているのなら、その人は、他者の罪をも赦すことができる！という話なのです。

<励ましの言葉>

何度も言います。私たちが救われているかどうかを明らかにしてくれるのは、私たちの知識や信仰歴、あるいは、奉仕の量などではありません。…私たちが救われているかどうか、それを明らかにしてくれるのは、私たちが、神様のみこころに従おうとするかどうか、イエス様の声に聞き従おうとするかどうか、ではないでしょうか？

確かに、この神様を信じ続けるのは、決して容易いことではありません。また、罪を赦すというのも、時には、かなり、難しい場合があります。…だから、神様の助けが必要なのです！…そのために、私たちは、こうやって、みことばを学び続けて…、また、日々、自分の罪を悔い改めたり、聖霊なる神様により頼んだりしながら、そういったことができていくのです！自分たちの力だけでは、絶対に、そういったことを継続していくことは不可能です！…だからこそ、私たちは、毎週のように、こうやって、神様のみことばを学び…、神様をますます信頼して歩んでいけるように祈り合ったり…、助け合い、励まし合い、時には、戒め合ったりすることが必要なのです！どうか、この八田西CCが、そういった意味においても、ますます、主のみこころにかなって、そういったことを実践できるようになっていけますよう願います。

そして、まだ、イエス様のことを信じておられない皆さん。私たち人間は皆、罪人で、罪の赦しや救いが必要です。あなたのことを赦し、そして、あなたのことを本当に変えることができるのは、真の神であられるイエス・キリストを置いて、他にはありません。イエス様は、絶対不可能と思われた、あの十字架の死からも、約束通り、3日目によみがえってくださいました。弟子たちは、そのことの証人です！

もし、あなたも、このイエス様のことを真唯一の神、あなたの個人的な救い主として、信じ受け入れてくださるなら、あなたも救われます！どうか、そういった決断を先延ばしにすることなく…、1日も早く、このイエス様を信じ受け入れてほしいと思います。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。